

2020年2月28日

保護者の皆さま

アトム共同保育園・つばさ共同保育園を育む会
代表世話人 木村一則

ESPERANZA 3月号

こんにちは、木村です。

早いもので、今年度も今号で終わりです。5歳児の保護者の皆さまにとっては、何をするにも「保育園生活最後の・・・」という言葉がつくわけで、今月はさぞや感慨深いものであらうとお察しいたします。

このひと月、いろいろな別れをすることになるかと思いますが、それはまた「新たな人」や「新たなもの」との「出会いの始まり」でもあると考えます。わくわくドキドキの4月に向け、3月の日々を大切に大切に過ごされますように・・・。

脇明子／著（ノートルダム清心女子大学名誉教授）『読む力が未来をひらく』を読みました。簡単に膨大な情報が得られる今だからこそ、読書の重要性を思います。 本を読むということをしないと得られないものは「思考力」と「想像力」を縦軸に、興味深い文が綴られていましたので、抜粋したものを紹介します。

主に文字で書かれた本は、文字を読んでそれに含まれている情報を拾い集め、思考力を使って情報を整理し、それに基づいて想像力を働かせるところまで進まない、楽しむことはできません。子どもの本にはたいてい想像の核になるような挿絵がついていますが、それを立体化させ、動かし、生命を吹きこみ、描かれていない場面へも押し広げていくのは、読み手の想像力の働きなのです。想像力、それも、シンプルなレベルではなく、さまざまな感覚や心情にも及ぶ高度な想像力を鍛えておけば、ごまかしやずさんな計画などに「おかしいぞ」と気づく力にもつながります。なぜなら、想像力は矛盾があるとつまずくからで、想像力がつまずいたら、そこには矛盾がひそんでいる可能性があるからです。その点映は、有無を言わさない現実感を持っているので、矛盾や不自然さを含んでいても、そのまま受け入れてしまいやすいのが、非常に大きな問題です。目の前に存在している映像の矛盾や不自然さに気づくためにはしっかりと鍛え上げられた思考力や想像力が必要で、それにも本を読むことが役に立つということになります。

1年間お読みいただき、ありがとうございました。感謝いたします。